

# SNS上の詐欺に利用される人的要因に関する調査

## A Survey on Human Factors Exploited in SNS-based Investment Fraud

芦田 高穂・ネットワーク分科会・情報セキュリティ大学院大学

### 1. 研究背景

近年、SNS型投資詐欺の認知件数及び被害金額共に増加しており(警察庁, 2024), IPAが発出した「情報セキュリティ10大脅威2024(個人)」においても、SNSを利用した詐欺の事例が紹介されるなど、社会的な問題となっており、効果的な対策が求められている。

- ・ 認知件数: 4099件  
(令和6年1月から7月, 前年同期比+3099件)
- ・ 被害金額: 580.4億円  
(令和6年1月から7月, 前年同期比+約489.3億円)

SNS型投資詐欺とは:  
SNS等を通じて対面することなく、交信を重ねるなどして関係を深めて信用させ、投資金名目やその利益の出金手数料名目などで金銭等をだまし取る詐欺(警察庁, 2024)

### 2. 目的

本研究では、SNS型投資詐欺に特有の被害要因を特定し、特定した要因に対応可能な対策手法について提案する。

### 3. 先行研究

- ◆ オンライン詐欺被害者に特有の心理的特徴があることから、その心理的特徴に合わせて対策を考える必要がある(Whitty, 2020)。
- ◆ オンライン投資詐欺の被害プロセスにおいて、信頼関係とテクノロジーが重要な役割を果たしており、詐欺師は、投資詐欺を実行する前に、被害者とオンラインで信頼関係を築こうとしていた(Andersonら, 2024)。
- ◆ SNS上のソーシャルエンジニアリングに利用される心理的要因の中には、技術的対策が困難な要因があるため、そうした要因を考慮した対策が必要である(Longtchiら, 2024)。

### 4. 先行研究で解決していない点

オンライン投資詐欺被害に特有の心理的要因に合わせた対策が不足している。

### 5. 今後の研究計画

先行研究において報告されている被害要因に対応可能な対策手法を調査し、その効果を検証する。